（第二版）（祭軍聖禮）（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）　昭和十二年　二十三日　（土曜日）　第一六二七五號

臺灣日日新報（夕刊）
十二月二十二日
夕刊定價一部二錢
臺灣新報發行人　佐々木　寧
臺北市榮町一丁目七番地　臺灣日日新報社
臺北市榮町一丁目七番地　電話（代表）五五〇番
高雄市旭町　電話七五番
臺南市寶町　電話長五〇〇番
花蓮港街入船町　花蓮港支局
大阪市西區阿波座上通三丁目　大阪支局
東京市京橋區銀座三丁目（電話銀座一五一〇番）　東京支局

たゝへ開催しても 九ケ國會議は徒勞

米國は善隣政策を強持せよ

不戰條約の父・レ氏が豫見

（タガゴ二十一日發本社特電）不戰條約の父として知られてゐる米國法曹界の大立物サーモン・レヴインソン氏は來るべき九國條約會議は結局失敗に終るだらうと次の如き意見を述べ注目を惹いてゐる

九國條約會議には實際九國が參加しまいから此點に於て既に失敗に終る運命にある、日本は恐らくつた險なり、寧ろ余は九大統領が英獨兩國の如き二國に對し日支紛爭の審判官となるよう要請するを希望する、蓋し英獨兩國は此場合何等の偏見なくして行動せねばならぬ余は如何なる場合に於ても米國としては戰爭を enforce せぬと言ふ印象を與へてはならぬル大統領の善隣政策は世界に對する米國の根本的態度として今後も持續さるべきものなり

伊政府招請受諾

【ローマ二十一日發同盟】イタリー政府はベルギー政府の九國條約國會議招請を受諾した

回答と同時に聲明

九國會議招請に對し

外務省で大綱決定

【東京二十二日發同盟】帝國政府に對する九國條約國會議招請狀は二十一日午前中にベルギー大使バソンピエール氏より廣田外相に手交されたが外務當局はこれに對し帝國政府としての態度を協調するため同日午後三時三十分より堀內次官以下各局部長參集首腦部會議を開き帝國の決定方針に基く回答案の大綱を決定したが二十二日午前再度首腦部會議を開き右回答文に萬遺憾なきを期した上關係各省と協議を遂げ大體二十六日の閣議に附し正式閣議を決定しベルギー政府に回答を通達する筈で同時に政府においては帝國の會議に對する獨自の態度を聞明すべく重大聲明を發表することゝなつた

伊政府招請受諾

【ローマ二十一日發同盟】イタリー政府はベルギー政府の九國條約國會議招請を受諾した

總裁親任式 二十五日擧行

【東京二十二日發同盟】新枢密院議長に就任する鈴木貫太郎氏の親任式は二十五日當日の御都合を伺つて擧行される筈

經濟制裁反對を ク會頭が强調

英商業會議所聯合會で

【東京二十二日發同盟】英國商業會議所聯合會は十二日ロンドンで開會されたが、同會議所會頭クラーク氏は日本側からの挨拶に答へ、日本貿易は英國に反對の宣傳を强調してゐる大の惡果を收めて英帝國の主要經濟機關に亙る經濟的制裁を決議したと述べ、日本の經濟的壓迫に對し英國民は斷乎として支那事變に對する英國の主張を支持せよと强調した

羅店鎭の戰況

【上海二十一日發同盟】○○部隊○○部隊は二十一日午後九時發表

山西共産軍 南方に敗走

皇軍船形高地を占領

【原平鐵二十一日發同盟特派員】忻口鎭の西北方に蟠踞する共産軍を攻撃中のわが行本部隊は二十一日午後五時四十五分忻口中地を一目に見下せる船形

【東京二十二日發同盟】昨二十一日午前十時から古田、土岡、佐野各陸軍省課長會議を開き、事變の進展に伴ふ陸軍の諸般の施策に關し協議を遂げたが、これに關聯して陸軍省側は左の如き重要人事を發表した

（東京二十二日發同盟）陸軍省發表

▲陸軍省軍務局長　阿部信行

▲陸軍省軍事課長　岩畔豪雄

▲陸軍省軍務局軍務課長　武藤章

▲陸軍省軍務局軍事課長　田中新一

▲陸軍省軍務局軍務課員　佐藤賢了

▲陸軍省軍務局軍事課員　永田鐵山

▲陸軍省軍務局軍事課員　石原莞爾

▲陸軍省軍務局軍事課員　今村均

▲陸軍省軍務局軍事課員　富永恭次

▲陸軍省軍務局軍事課員　山下奉文

▲陸軍省軍務局軍事課員　岡村寧次

▲陸軍省軍務局軍事課員　小畑敏四郎

▲陸軍省軍務局軍事課員　土肥原賢二

▲陸軍省軍務局軍事課員　東條英機

▲陸軍省軍務局軍事課員　板垣征四郎

▲陸軍省軍務局軍事課員　磯谷廉介

▲陸軍省軍務局軍事課員　橋本虎之助

▲陸軍省軍務局軍事課員　梅津美治郎

▲陸軍省軍務局軍事課員　畑俊六

▲陸軍省軍務局軍事課員　荒木貞夫

▲陸軍省軍務局軍事課員　林銑十郎

▲陸軍省軍務局軍事課員　寺内壽一

▲陸軍省軍務局軍事課員　杉山元

▲陸軍省軍務局軍事課員　香椎浩平

▲陸軍省軍務局軍事課員　川島義之

▲陸軍省軍務局軍事課員　白川義則

▲陸軍省軍務局軍事課員　上原勇作

閘北、浦東方面の敵夜襲

【上海二十一日發同盟】廿一日午後八時大華飯店の陽臺から

『和平』を電請

德州の治安維持會が

韓復榘省主席に

【濟南二十二日發同盟】德州治安維持會は二十日午後臨時會議を開き、會議を他に移し縣內人心の安定に關し種々協議したが席上一致で徳復榘氏保護安民の大義より鋭ふため從らく日本軍と協調和平に盡力するため同氏に對し通電を發することに決定した

新法制局長官

船田參與官を起用

【東京二十二日發同盟】議會開會中缺員となつた法制局長官の後任は廿二日の定例閣議に於て岡田總理より船田參與官を起用する旨發表された

大藏省異動

二十五日發令

【東京二十二日發同盟】原嘉道樞密院議長の對滿外交顧問就任に伴ひ大藏省からは參與官の興津彌五右衛門氏が顧問就任及び松村秀逸參與官が議長就任方向に進捗中であるが

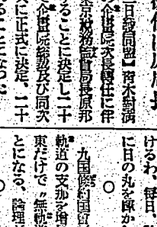
文部大臣更迭

後任は木戸幸一侯

【東京二十二日發同盟至急報】安井文相は病氣の爲め辭任することになり後任は木戸幸一侯（現宗秩寮總裁）に決定した

新文相略歷

新文部大臣木戸幸一侯は侯爵新木戸孝正の嫡子として明治廿二年七月十四日生れ、大正四年京都帝大法科を卒業、農商務省に入り、任し樞密院書記官長、次官、貴族院議員に當選、同院議長、文部大臣に任ぜられ次で宗秩寮總裁、王公族監督官等を經て昨年內大臣に任じ樞密院議長に轉任現職に在り、二男一女あり、



大臣級に昇任した木戸幸一侯

臺灣國立公園の區域、原案成る

大屯公園は七星竹子山を除外

廿五日特別委員會附議

名峯傑勝揃ひながらも、同日に內務局土木課員の手によつて昨年中實地踏査の上決定した新國立公園候補地の區域案が、廿五日の特別委員會附議にかけられる筆の運びとなつたので、右三案

本年八月上旬決定した太魯閣方面の區域案及び大屯方面及びタロコ峽方面の國立公園候補地の區域案が、廿五日の特別委員會附議にかけられる筆の運びとなつたので、右三案

蒙古民族大團結

全王侯が馳せ參じて

察、綏から支那兵一掃

【包頭、十一日發同盟特派員發】日本軍當局の蒙古民族に對する積極的工作の結果、內蒙古の大部分は既に我が手に歸したが、更に察哈爾、綏遠兩省の蒙古民族は、今回の蒙古民族大會の開催を機として、擧つて我が方に參加し、察哈爾、綏遠兩省の支那軍を一掃すべく、十一日內蒙古の各王侯は、それぞれ部下を率ゐて包頭に參集し、十一日

大編隊で南京襲撃

【上海廿一日發同盟】二十一日午後一時わが海軍航空隊の○○機は大編隊を組み、南京の大空遙かに殺到、南京停車場及び飛行場、南京市內外の軍事施設に對し徹底的打撃を加へた、一方陸軍少佐の率ひる海軍航空隊の○○機は揚子江上流に向ひ、安慶、蕪湖、九江、南昌、漢口、岳州、沙市、宜昌、萬縣、重慶、奉節、雲陽、巫山、巫峽、大昌、奉節、雲陽、萬縣、宜昌、沙市、岳州、漢口、南昌、九江、蕪湖、安慶、南京へと多

崑山、南京を空襲

【○○二十二日發同盟】我が○○海軍航空隊三原大尉の指揮する大鵬○○機は二十一日午後一時崑山を大爆撃し更に昔久少佐、山之內大尉の指揮する○○機は同日午後二時南京大爆撃の須田部隊に協力して硫酸亞廠を爆破、敵に大打撃を與へて何れも全機無事歸還した

上海で大肉彈戰

我が○○健兒の猛撃で

○○クリーク迄退却

【○○二十一發同盟】○○前線○○部隊は○○クリーク前方の敵の據點と恃む○○を攻撃飛行隊、砲兵の掩護下に午後一時を期し命令一下壯烈なる肉彈戰を敢行敵は忽ち崩潰し始め遂に算を亂して○○方面に退却を開始したのでこれをすかさず追撃逃ぐる敵を追つて二千米の突撃を一擧に決行し同三時半○○を奪取勢ひに乘じて更に○○方面に敵を壓迫此處に踏み止つて逆襲に轉せんとした敵はわが猛進撃に逃げ場を失ひ脆くも潰滅し○○の陣地をも放棄し○○クリークまで退却の餘儀なきに至らしめた時正に午後五時二十分○○鎭市街北端はわが手に歸し南半分は火災を起し黑煙天に沖してゐる

臺灣民衆の聲

支那事變と國民精神總動員

座談會

臺灣日日新報社主催

臺灣放送協會後援

臺灣教育會協賛

臺灣婦人團體聯盟協賛

臺灣青年團協賛

臺灣體育協會協賛

臺灣新聞記者會協賛

臺灣實業協會協賛

臺灣商工會議所協賛

臺灣農會協賛

臺灣醫師會協賛

臺灣婦人會協賛

臺灣婦人慈善會協賛

臺灣婦人矯風會協賛

臺灣婦人會協賛

臺灣婦人會協賛

臺灣婦人

手榴彈の雨を突き 筆舌に絶する大激戰 行本部隊・忻口山を占領

【原平鎭二十一日發同盟特派員】我が行本部隊の忻口山陣地占領戰は筆舌に絶する勇壯無比な激戰であつた、二十一日眞紅な夕陽が西に沒せんとする頃、行本部隊長を先頭に山の地隊を傳つて前進した部隊は敵前二十米の地點より銃劍をきらめかせ突如として敵陣に躍り込み手榴彈の雨を物ともせず右往左往する山西共產軍を片ッ端から突き殺し殘滅的打擊を與へ忻口山も破れるばかりの萬歲を叫んだのであつた

部隊長に訣別信號し 敵砲兵陣地へ突入

上海戰線陸軍機最初の犧牲

【上海廿一日發同盟】部隊長の合圖を待つてその儘陸上に上陸の準備をなしつつ敵の猛射をなほも冒して小部隊毎に敵前偵察をなし敵上自來の堅塁で機關銃射撃の猛射を浴びて遂に前進する能はわが空軍に對し熱烈なる感謝の意を表した

【佐世保二十一日發本社特電】空襲になほ不斷の武勳をたて再會を誓はれて居る○○海軍航空隊を率ゐ飛行長山中龍太郎少佐は暫く戰線の雲の彼方からとも なく又現れて來るのは必至そのものの如き加藤軍曹は感ずるところ

近頃の敵機は 他國の應援機か 戰意が無いから

だが多少來ても殲滅は目の前

山中少佐語る

【佐世保二十一日發本社特電】空襲戰に不斷の武勳をたて再會を誓はれて居る○○海軍航空隊を率ゐ飛行長山中龍太郎少佐は暫く戰線の雲の彼方からとも なく又現れて來るのは必至そのものの如き加藤軍曹は感ずるところ

加藤軍曹の勇猛

【上海廿一日發同盟】部隊長の合圖を待つてその儘陸上に上陸の準備をなしつつ敵の猛射をなほも冒して小部隊毎に敵前偵察をなし敵上自來の堅塁で機關銃射撃

不良兒と低能兒 著しい共通點がある

考ふべきは親の安協的態度

前田若尾

私は常からお願ひしておいた不良敎育と、低能兒敎育との實際を見せて頂くことにした。私はこの二つを、決して互ひから離れたものとは考へてゐません。世の中には普通の兒童と區別はないものだと信じてゐる私から見れば、不良といふのも低能兒といふのも、敎育程度問題だと考へてゐます。不良に近い者、低能より少しいい者が、普通の人の顏をして大手をしてゐるのは眞實です。

△

處で係の方のお話、施設其他に關する實際及び實地觀察の結果、この不良兒と低能兒に對し、同じ樣の點があるといふ結論を得たのは私にとつて新しい發見であります。區別に考へられるのは、無關頭の程度の弱い相違であります。移り氣で仕事に根氣のない事と、自分の事だけ考へて、人の爲を圖らない事、この二つは不良兒、低能兒に共通の缺點であります。それがあらゆる點を以て證明してあります。この見學の結果、私にはこの二つの定義を以て他を圖つて見る樣な餘力がついたのです。聰しい事に、この二つが具備してゐる人が常人と區はれる人の中に數人あるか判りません。

△

私はこの恐るべき事實に直面して、つく〳〵考へたことです。これは、一つは先天的性質にもよるかも知れませんが、今一つは親が溺愛に對し、家庭的態度が執つて、觀察當機の缺陷を補つけなかつた結果ではなからうかと思ひます。

△

人として敎養されるといふ事は耳によつて眼によつて、物を知る事にはないのです。人と人と觸れあつて、所謂雙方の呼吸のあつた時、一種の眞劍勝負の結果、はじめて眞劍の如く彼より我に敎得しり得るものであります。然しながら今日の若者は、親しくもその機會をもちません。親に對する絕對服從の味を知らないのです。

△

昔は親が一人前になるのには、他に奉公させたといふ。どんな吐責をも喜んで受ける心がその頃を完成させるのです。然るに今は戰しい敎育に對する親心といふだけの問題です。

又今日は、親の手許が勝手に離れ、所謂自由の天地に飛翔しようと考へます。就營などといふことは、苦勞しみた屈敎に等しい事だと思ひ、何の感激をも起さない。

△

かういふ事は、驚くべき事ですが、人と人との間に、どんな言葉も、心の耳にはひびきません。正しい的をもたない時、彼が醒た矢は、どこに飛んでゆくでせうか。思へば恐ろしい事です。根氣のない、利己主義であつて、物質的の本能を激發させる程度に甘やかした結果と思はれます。若し國家擧げて不良兒との機會にまかせなければならない時が來たならば、誰がその責を負ふべきでせうか。

△

かういふ事は、驚くべき事ですが、人と人との間に、どんな言葉も、心の耳にはひびきません。正しい的をもたない時、彼が醒た矢は、どこに飛んでゆくでせうか。思へば恐ろしい事です。根氣のない、利己主義であつて、物質的の本能を激發させる程度に甘やかした結果と思はれます。若し國家擧げて不良兒との機會にまかせなければならない時が來たならば、誰がその責を負ふべきでせうか。

新しい毛絲服

田園には淺り島の姿を見卽會では銀鈴樹のわくら葉カラカラと音をひびかせて歩道を踏んで行くそれほどの風でもないのに秋風なれはこそ——

×

かかるとき
淺瀨に踏み時
いとも輕やかに見ゆる
新毛絲のサンダルはこれ
のです。

×

乾燥といふものがいかに大切であるか、これを大きくいへば、一定の的に向つて、踵手不撓の精神を以つて直向に進むが、人としていかに價値あることであるかを、若い人は知つてゐるでせうか。また我のみならず世界に住んでは我を忘れて人の爲に盡すのが、最も美しい德であるといふ事があるでせうか。

11月新譜發賣

何れも粒選り！躍進「キング」を御愛聽下さい！

KING

軍歌 攻撃の門出 陸軍戸山學校軍樂隊 (1.65)
愛國歌 皇軍の門出 永田絃次郎 (1.65)
軍歌 出征軍人を送る歌 長門美保 (1.65)
軍歌 婦人防護團の歌 キング愛國合唱團 (1.65)
軍歌 無敵一日 近衛八郎 (1.65)
軍歌 事本 永田絃次郎 (1.65)
軍歌 戰場の軍旗 樋口靜雄 (1.65)
戰隊の歌 近衛八郎 (1.65)
陸軍 陸軍の軍歌 樋口靜雄 (1.65)

流行歌 戰地から故郷へ 塩まさる・新橋みどり (1.65)
(片面) 月下の吟詠 塩まさる

流行歌 愛國の誓 音丸 (1.65)
流行歌 出陣中軍人の母 小唄勝三門順子 (1.65)

愛國童謠
僕らの愛國號 河村順子
僕は海軍大好きだ 河村順子
兄さんの出征 高城日出子
兵隊さん萬歳 小坂勝也

愛國兒童劇
戰場のお父さん 長谷川照子 (1.65)

流行歌 軍國の母 樋口靜雄 (1.65)
流行歌 涙の振り鼓 三門順子 (1.65)
流行歌 軍國子守唄 三門順子 (1.65)
軍歌 軍國安來節 河田一男 (1.65)
軍歌 軍國の五本松 小田原みやげ 河田一男 (各一枚 1.10)
軍歌 軍國の母 金山勝 (1.65)
民謠 通內甚句 大門五子 (1.65)

ドコモンコ王の進躍で勢の竹破

混花節傑作盤
新民謠 涙の君が代 玉川勝太郎
樋口兵候 宮川左近
宗吾郎の子別れ 京山小圓
美しき餞別 相模太郎 (五面二枚一組 2.20)

戰友會の方が讀んだ
さらば僕隊よ 塩まさる (各一枚 1.65)
今ちや北支の第一線 林伊佐緒 (各一枚 1.65)
ケンキン節 林伊佐緒 (各一枚 1.65)

日本軍歌集歌
日本陸軍 (各一枚 1.10)
婦人從軍歌 (各一枚 1.10)
國立音樂學校の歌 (各一枚 1.10)
樂しい軍隊の歌 (各一枚 1.10)
興致なる水兵 (各一枚 1.10)
進軍 (各一枚 1.10)
進軍は機嚢 (各一枚 1.10)
戰の進軍 (各一枚 1.10)
進軍 (各一枚 1.10)

上海の鬼神 (各一枚 1.10)
南苑死の一番乘り (各一枚 1.10)
陸軍 陸軍の行進曲 (各一枚 1.10)
陸軍 陸軍の行進曲 (各一枚 1.10)
陸軍 陸軍の行進曲

國定忠次

(第十回)

長谷川伸作
岩田專太郎畫

(86)

濡れ鼠(三)

伊三郎は黙はずして勝った。と思ふ間もなく、忠次の體は、ぐらぐらと揺れ出した。相手の體が、ずるずると前方へ倒れかゝつてくる。その重味が眼へ入るそ太い明かりが消えて、眼の前が暗くなつた。と思ふ間もなく、忠次の體は、伊三郎の上へ折り重なつて倒れた。

「親分！」

忠次は、伊三郎の體を跳ね飛ばして起き上がつた。

「忠次、お見事だ。流石は俺の弟だ。俺にかかれ」

「何を。よくしやアがつたナ」

伊三郎も、負けるなとばかりに、起き上がつた。

「何を。よくしやアがつたナ」

忠次は、一歩踏み出した。

「忠次、どうしたと思つてゐる」

伊三郎も、一歩踏み出した。

「何を！」

忠次は、一歩踏み出した。

「何を！」

伊三郎は、一歩踏み出した。

「忠次、どうしたと思つてゐる」

臺灣日日新報
日本唯一夕刊共十二頁
臺北 佐々木人行發行兼編輯
地方版發行所 臺北市北門町四丁目一番地 所行社
電話 代表五〇二五番 編輯局五〇二一番 庶務局五〇二二番 印刷局五〇二三番
臺灣日日新報社臺北支局 臺北市榮町一丁目一番地 電話 代表一〇五番 編輯局一〇六番 庶務局一〇七番 印刷局一〇八番
臺灣日日新報社臺中支局 臺中市綠川町一丁目一番地 電話 代表一〇番 編輯局一一番 庶務局一二番 印刷局一三番
臺灣日日新報社臺南支局 臺南市末廣町二丁目一番地 電話 代表一〇番 編輯局一一番 庶務局一二番 印刷局一三番
臺灣日日新報社高雄支局 高雄市新濱町一丁目一番地 電話 代表一〇番 編輯局一一番 庶務局一二番 印刷局一三番
臺灣日日新報社花蓮港支局 花蓮港街大字花蓮港一番地 電話 代表一〇番 編輯局一一番 庶務局一二番 印刷局一三番
臺灣日日新報社澎湖支局 馬公街大字馬公一番地 電話 代表一〇番 編輯局一一番 庶務局一二番 印刷局一三番
臺灣日日新報社屏東支局 屏東市榮町一丁目一番地 電話 代表一〇番 編輯局一一番 庶務局一二番 印刷局一三番
臺灣日日新報社嘉義支局 嘉義市榮町一丁目一番地 電話 代表一〇番 編輯局一一番 庶務局一二番 印刷局一三番
臺灣日日新報社新竹支局 新竹市北門町一丁目一番地 電話 代表一〇番 編輯局一一番 庶務局一二番 印刷局一三番
臺灣日日新報社臺東支局 臺東街大字臺東一番地 電話 代表一〇番 編輯局一一番 庶務局一二番 印刷局一三番
臺灣日日新報社基隆支局 基隆市仁愛路一丁目一番地 電話 代表一〇番 編輯局一一番 庶務局一二番 印刷局一三番
臺灣日日新報社宜蘭支局 宜蘭街大字宜蘭一番地 電話 代表一〇番 編輯局一一番 庶務局一二番 印刷局一三番
臺灣日日新報社臺北出張所 臺北市榮町一丁目一番地 電話 代表一〇番 編輯局一一番 庶務局一二番 印刷局一三番
臺灣日日新報社臺中出張所 臺中市綠川町一丁目一番地 電話 代表一〇番 編輯局一一番 庶務局一二番 印刷局一三番
臺灣日日新報社臺南出張所 臺南市末廣町二丁目一番地 電話 代表一〇番 編輯局一一番 庶務局一二番 印刷局一三番
臺灣日日新報社高雄出張所 高雄市新濱町一丁目一番地 電話 代表一〇番 編輯局一一番 庶務局一二番 印刷局一三番
臺灣日日新報社花蓮港出張所 花蓮港街大字花蓮港一番地 電話 代表一〇番 編輯局一一番 庶務局一二番 印刷局一三番
臺灣日日新報社澎湖出張所 馬公街大字馬公一番地 電話 代表一〇番 編輯局一一番 庶務局一二番 印刷局一三番
臺灣日日新報社屏東出張所 屏東市榮町一丁目一番地 電話 代表一〇番 編輯局一一番 庶務局一二番 印刷局一三番
臺灣日日新報社嘉義出張所 嘉義市榮町一丁目一番地 電話 代表一〇番 編輯局一一番 庶務局一二番 印刷局一三番
臺灣日日新報社新竹出張所 新竹市北門町一丁目一番地 電話 代表一〇番 編輯局一一番 庶務局一二番 印刷局一三番
臺灣日日新報社臺東出張所 臺東街大字臺東一番地 電話 代表一〇番 編輯局一一番 庶務局一二番 印刷局一三番
臺灣日日新報社基隆出張所 基隆市仁愛路一丁目一番地 電話 代表一〇番 編輯局一一番 庶務局一二番 印刷局一三番
臺灣日日新報社宜蘭出張所 宜蘭街大字宜蘭一番地 電話 代表一〇番 編輯局一一番 庶務局一二番 印刷局一三番
（第二版）（原稿配達）（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）昭和十二年十月二十三日 臺灣日日新報（土曜日） 第一万三千五百一號 （一）

參加はお斷り
回答、聲明の要旨

【東京二十二日發同盟】獨伊外相は二十一日の閣議においてベルギー政府より提出した九國條約國會議の日本に對する參加勸誘の回答書を檢討し、右日上書の內容は我方に取り幾多の疑義あると共に我方としては支那事變に關する帝國政府の既定方針に基き同會議には參加を拒絶すべきであるとの理由を明記し、更に廣田外相より獨伊兩國大使に對し右回答の根本方針に付いても說明があつたので、廣田外相より獨伊兩國政府の諒解を得た上、二十二日の定例閣議に於いて右回答文案の作製を急がせ、可及的速かに發文を整備した後在京獨伊兩大使に對し、帝國政府の回答文を交付、上海會議の開かれる同日中に正式に帝國たるベルギー政府に對し回答することに決定したが、回答文の要旨及びに同時に發表される帝國政府の聲明書子定なる左記の如きものと見られ、尙國際聯盟より今回の九國條約國會議が不十分の點があり有名無實の感を指摘し、更に帝國の對支自衞權行動は何等九國條約の違反に非ざる旨を率直に言明せるものである

一、帝國政府はアメリカ政府の同意と殊にイギリス政府の同意に基く今次の九國條約國會議に參加し得ざることを爽心ながら遺憾とするものである

一、去る十月六日國際聯盟第二十二回總會に於いて九國條約國會を招集し問題を平和的に解決せる決議を採擇するに當つて既に明かな如く、又帝國政府の方針は關係不參加たるに拘らず、此の機會に於て帝國政府は九國條約の精神に從ひ同條約國會議の成功に對し出來得る限りの協力を與へんとするものである

二、帝國政府は九國條約國會議が來る三十日ブラッセルに於て開催せられんとするに當り、同國たるベルギー政府より帝國に對し正式に參加招請方申出でたに對しては、帝國政府は今回日本に對して

支那が策する 次から次と

對日經濟壓迫

却て自國産業の脆弱性に 何れも的外れの態

【東京二十二日發本社特電】日支通商條約改訂に關し日本の實務當局者のとつた態度に對し支那側は如何になつたか、實務當局者のとつた態度に對し支那側は如何になつたか、實務當局者のとつた態度に對し支那側は如何になつたか、

大學の講座制 (二)
―主として法文系統の學部に於ける―

淡野安太郎

パリー大學の哲學科には哲學概論と論理を持つた講義は全然はれない。それは個々の講義が全般的なものに除く狀態にしてその總合を學ることから觀れてそれとは別に所謂「概念的に構成された講義」をただ概念論に終ることに大した學問的意味を認めないフランス人的な考へ方の講義に物足りないものであらう。古代哲學の研究を以て世界的に知られて居るロバン教授が二千年も前の哲學を講義にテキストについて說く時はひたから、しかもそれを通して古人にそれをつきぬけて一歩々々自分自身の哲學的思索へ導いて行くあの名講義を私はすぐ物思ひ出さざるを得ないのである。

對之てE. Brehierのすきな獨逸の大學に哲學概論の講義があるのは何の不思議もないが、しかし伯林大學が哲學概論の講義を專門に担當する人を決めて居ないのはなかなか注目すべきことである。即ち哲學概論の講義を聽講することは誰の哲學を聽講するなどに關する特殊講義に陷り易い、私の聽いた一年前の夏期にはユンプランガーが哲學概論を講じ、それにつづく各學期にはオーデプレヒトが代つて哲學概論を持つて居た。シュプランガーはなんといつても既に大家のことであり、且つ教育學を哲學的學科として基礎づけやうと努力した人としてその學問が可成した風格を具へて居ることは誰の目にも注目に値することであつた。

隨筆
B君とG君
(下)
金關丈夫

此のM君は有名な計數好きで、巴里に日本研究所が建てられてから暫くしてB君一家と隣人になつて、其後數年間も交際を續けたのである。

M君は或る日、B君に一万円出させる提案をした。B君は此の男に騙かすのは、餘りの事だと思つたが、M君の人柄を信じて出すことにした。

……

……

M君は早速第一回の會合を開いた。B君の話が思はず長くなつてしまつたから、Gの方は餘りに片づけなければならない。

G君はその四年ロンドンの國際人類學會に出席して、パリに暫く滯つてゐた間に人類學者でもあり、印度人に關するその研究は我國の學界にも紹介されてゐる。云はば世界的名聲ある學者であつたつき合つて見れば、年に似合はず剛の擧げ上つた好々爺然たる風貌で、それにふさはしい溫厚な物腰とで、何人にも親しみを持たせる人物である。

其後G君はピュアオン街の我國の研究所に、印度人の類型を計測し、又一二度はサンマルセル通の古い人類學研究所で、頭蓋骨の計測をして居た或日僕をプール散髪に誘ひ出すと云ふので、二人は時間を見て出掛ける事を約束して別れた。

時、彼はミシン一ンから申つてきて、僕の室にこうり込んで來た。彼は約二週間の僕の留守を、ラテン町の後藤夫妻にお願ひして、お互ひの健康を祝し合つてゐたが、此の日僕等は皆分の別れを惜しむことになつてゐたのである。

それとも知らぬG君は、呑氣相に話し乍ら、それからやつたとサンマルセルに着いたが、僕の考へでは、これは四角形の一辺を行く代りに他の二辺を行つた方が近いだけの近道をとつた爲になるのだらうと思つた。

……

……

僕が伯林第一のダーレムにゐた時、彼はミシンハ